



親鸞聖人の教えは、生まれてからいのち尽きるまでの人生を完全燃焼＝受け入れ納得してやり尽くすためにあると考えます。

浄土真宗は、「本願を信じて念佛を称えれば仏になる」教えだと表現しますが、これが「さっぱり分からぬ」と言われます。真宗寺院の一住職として、一般の方々に真宗の教えが身に染みて分かるよう腐心してきました。なぜ伝わらないのか。

「人生のしくみ」論を曖昧にしてきたからだと考えました。何をするために生まれて来たのか、生きる目的は何なのか、生まれる前のことと死んだ後のことはどう考えたらいのか。近代の教団が明上げてみます。そして、そのしくみを「仮定」した上で、「今生以外のことは『おまかせ』の世界なので、興味本位で詮索したり執着したりせずに、今的人生を精いっぱい生きる」と考えて頂きたいの

です。その時、親鸞聖人のお言葉が輝き出すと思うからです。

飯田史彦氏。昭和37年、広島県竹原市生まれ。学習院大学経済学部、同大学大学院経営学研究科を経て福島大学経済経営学類教授。現在は、経営心理学者、カウンセラー、音楽療法家、作家。

著書『生きがいの創造』は、欧米や日本の多くの科学者、医師、大学教授たちによる研究をもとに「死後の生命や生まれ変わり」を証明することではなく、「もしも、人生のしくみが事実であると仮定し、人生で生じるあらゆる現象に意味があると仮定すれば、私たちの日常の小さな不満は無意味なものとなり、何の価値も持たないよう見えた不幸や挫折が、逆に貴重な価値をおびてくる可能性がある」と述べられています。

【意訳】臨終の時が近づいたので、上人が門弟に告げていわれるには、浄土に往生することはこれで三度目になるが、この度の往生は、教化をはなし終つたので満足してとげやすいと

# 人生は思い通りにならないからこそ価値がある

## 住職 横山祐慈

米や日本の多くの科学者、医師、大学教授たちによる研究をもとに「死後の生命や生まれ変わり」を証明することなく、「もしも、人生のしくみが事実であると仮定し、人生で生じるあらゆる現象に意味があると仮定すれば、私たちの日常の小さな不満は無意味なものとなり、何の価値も持たないよう見えた不幸や挫折が、逆に貴重な価値をおびてくる可能性がある」と述べられています。

そして「ブレイクスルーサイクル」というものを提唱しています。これは「すべてのもの」とには意味

【意訳】上人が自らいわれる

源空みずからのかたまわく  
靈山会上にありしどき  
声聞僧にまじわりて  
頭陀を行じて化度せしむ

のには、自分がかつて釈尊説法の靈鷲山の会座にいた時、声聞僧たちと一緒に乞食の修行を行い、衆生を教化済度したことであると

本書の内容は、近年発達してきた、人間をトランスポーナルな個人を超えた)状態へと導くための退行催眠という精神医学の治療法に支えられています。『完全版・生きがいの創造』の要点を項目別にしてまとめてみました。

## ■概要■

- ・肉体ではない精神=意識体(俗に言う魂)こそが永遠に存在する人間の本質である
- ・肉体に宿っていない状態(中間生=あの世)の間に、自分自身で次の人生を計画する
- ・人生とは、死・病気・人間関係などのさまざまな試練や経験を通じて学び、成長するための学校=修行の機会であり、自分自身で計画した問題集である
- ・今回の人生での修行課題として、性格・性別・身体特性の人間が設定される
- ・人生は、自分の言動によって、将来の展開が変わってくる

・思い通りにならないことこそが、この物質世界が持つ最高の価値である

・そもそも、壁そのものに価値がある

・その過程が楽しいからこそ、何回も生まれなくなる

・現在の人生は、過去の人生の集積であると同時に、今後の人生の下地である

・あらかじめ何回も先の人生までをも視野に入れた長期的な計画で自分の成長をはかる

・誰もが、自分の意思と能力によつて「がんばれば必ず解決できる、ちょうど良いレベルの」試験問題=試練のみを抱えて生まれてくる

・人生で出会う人々は、親友も宿敵もみな深い理由にもどづき、必然性があつて出会う

・過去生での出来事を思い出すことができないのは、過去生での経験を参考にしながら今回の人生を生きることは出来ないといふ暗黙のきまりがあるらしい

・人生を終えて本来の姿になつたあとは、みな「善なる存在」に戻っていく

・終えてきた人生で問われるのは、私たち一人一人の誠実さ、

・道徳性のみである  
・この世でもうけたお金や、得た地位はいつさい評価されない

## ■指導役の存在■

・肉体から離れた後の非物質世界にいる指導役の意識体たち(しばしば光として現れる)が存在する

・指導役の意識体は、あらゆる人間を支え、許し、励まして下さる高次の存在である

・どのような人にでも、必ず守つてくれている意識体がいる

・人はそれぞれに許された存在であるということを実感される

・大きな存在や、たくさんの魂たちとつながり、ともにいるという感覚を持つてる

・あせらないで待つていれば、知恵を身につけるチャンスが向こうからやってくる

・仏像とは「光の存在」や「指導役の意識体」たちのことを、わかりやすく表現したものである

・人生といふ学びの計画においては、結婚相手と出会うまでに、いくつもの失恋を繰り返しながら、自分の愛の水準を高めていくことも多い

・時には、子どもを持たないままで夫婦として支え合いながら、夫婦として創造的な人生を送る

## ■人生の目的■

ではない、ということ。私たちは、この世において、中間生で自分が選んだことを表現していく。私たち自身が、中間生で肉体を持たない状態の時に決定したことによって、今回の人生が決まる。そして、どのような心がけで人生を生きていくかによって、悪運や良運がめぐつてくれる

・たとえ、現状がいかに困難な境遇にあっても、その境遇にわが身をおいたのは、ほかならぬ自分自身。人間はそれぞれ「試練や苦難の中にこそ、学び成長するための最大の機会がある」ということを理解すると、人知を超えた宇宙の法則に対しても、深い感謝の情を抱くことになる

・人生といふ学びの計画においては、結婚相手と出会うまでに、いくつもの失恋を繰り返しながら、自分の愛の水準を高めていくことも多い

## ■修行課題■

・いちばん重要なのは、今回の人生で私たちがおられた境遇は、決して偶然にもたらされたもの

方法は、子育て以外にもたくさんある

- ・ 今回の人生は、そういう方法で学ぶ順番である、ということにすぎない
- ・ ほかの夫婦が子育てのために要している時間・お金・労力を他のことに挑戦するために活用することによって、子どもを持つ夫婦には真似のできない方法で創造的に生きることが出来る
- ・ 若くしてこの世を去る人は、すでにこの世での目的を果たしてしまったためか、若くしてこの世を去ること自体が、その人や家族にとって特定の大きな意味を持つているからである
- ・ 病気や障害などの身体的ハンディキャップや、厳しい生活環境を体験しながら生きる人生を絵画してきた人々は、すでに多くの学びを積み、今では人間を卒業する最終試験に挑んでいるような、勇気ある素晴らしいチャレンジヤーである
- ・ そういう方は、決して「運の悪い、かわいそうな人」ではなく、「それほど高度な学びに挑戦するに値する、素晴らしい人である

けて、何一つ問題を解決していないような人でも、いつでもその誤りに気づき、方向転換をする道が用意されている。60歳、80歳になつてから、自分の言動の誤りに気づいた場合でも、決して遅くはない。いつからでもやり直しがきくようになつてしまい、たとえ今回の人生で多くの課題をやり残したとしても、人生を終える前にそれに気づき、わずかでも良い方向に向かって、その誤りを取り消そうとしたかどうかということが問われる

「この世の境遇」は「業・宿業」と考えればいいし、「自分で決めた」となれば「背負う責任」を自覚することができます。

「指導役の意識体」は「阿弥陀」と解釈できます。「あらゆる人間を支え、許し、励ます」存在だからです。親鸞聖人の和讃にあります。

「私たちがおされた境遇」の目的・願いであると言えます。

「仏になる」とは、「多くの学びを積み、人間を卒業」すること。真宗では、「今生を迷いの最後の生とする」という言い方をします。今的人生の境遇に託された課題と真向かいになればいいのです。

「たった一度の人生」とよく言われますが、その人生が不遇に満ちたものの場合、現実を引き受けるのは困難です。しかし「何回もの人生を視野に入れた長期的計画」があるのならば、「今回は結婚しない人生」を、「今回は子どもを持たない人生」を、今回は「病気がちな人生」を学ぶのが目的だと受け止めて、胸を張つて生きられるのではないかでしょうか。

現在の境遇は、今の自分では変えられない「食材」であり、それをどう「料理」するかが自分の運命を作ることです。そして、より深く学び成長するために、親鸞聖人のお言葉が力となります。

我々の魂は、「成長を志向する」存在なので、物質主義の幸せでは満足できません。教えを聞く生活が、本当の幸せのいちばん近道だと思うのです。

**緊急事態宣言 第3回（5月12日～6月20日）第4回（8月27日～9月30日）の  
発出期間中は主な教化行事を中断しました**

# 行事写真報告

5月から  
10月まで



**第30代同朋婦人会 上山研修&帰敬式** 7月10日 同朋婦人会の任期2年目、京都の東本願寺で研修と帰敬式を受けてきました。日帰りでしたが、賑やかで元気いっぱいの一 日でした。6名が自分で選んだ法名を頂き（後列はすでに受式済みの方）、親鸞聖人得度の地、青蓮院へもご挨拶してきました。





## お盆行事

8月8日 仏具お磨きと境内清掃 13～15日 お盆特別申し経 15日 戦没者追弔会・初盆会  
16日 孟蘭(うら)盆会・境内墓地萬燈会・お焚き上げ・南本郷墓地萬燈会・向畠墓地萬燈会



8月20日緊急事態宣言の間隙を縫って一日だけ開催。ゲーム大会や清掃奉仕、水墨画にも挑戦しました。34年目の夏も子どもたちの歓声が響きました。

## 児童夏の集い



清掃奉仕



ゲーム大会



正信偈



水墨画



カレーライス

## 秋季彼岸会・永代祠堂法要

9月22・23日法要のみの開催。法話・お斎(お弁当も含む)・お抹茶接待なし。法要は厳粛に勤めました。





## 報恩講2021講師紹介

### 模山正樹 師

昭和42年、滋賀県長浜市樹徳寺生まれ。大谷大学卒業。現在、稻沢市教西寺住職。名古屋教区准堂衆会、教誨師。東本願寺樂僧かくそうりゆうそうへ龍笛りゆうつけ。

### 藤原千佳子 師

三重県桑名市生まれ。石川県能美郡淨秀寺前坊守。加賀の三羽鳥といわれた義祖父の藤原鉄乗てつじょう師に教えを受ける。著書『慈光はるかに』他。

### 秋田千夏さん

和泉町生まれ。愛知教育大学音楽課卒業。各地区演奏会に多数出演。3番組在住。ピアニスト。

### 佐賀枝夏文 師

昭和23年、富山県魚津市榮明寺生まれ。大谷大学大学院修了。大谷大学名誉教授。高倉幼稚園名誉園長。真宗大谷派青少年センター研究員。臨床心理士。ハンガリー留学経験あり。

### 平田聖子 師

岡崎市生まれ。愛知県立芸術大学音楽学部作曲科卒業。文化庁舞台芸術創作奨励賞を受賞。親鸞の世界に作曲することをライフワークとしている。

### プロフェッショナル仕事の流儀

#### 「志村が最後に見た夢～コメディアン・志村けん～」

NHKに残された貴重な秘蔵映像から志村さんが貫いた「笑いの流儀」と生涯をかけて目指した「夢」をひもとく。総合テレビ8月21日放送。

# 報恩講2021のご案内

令和3年12月2日(木)～5日(日)

12月	時刻	ごん 勤 行 名	法 話 等	お齋 = 食事
2日(木)	13:30	しょ 初 逮 夜	うめ やま まさ き 榎山正樹師	
	19:00	しょ や ごんぎょう 初 夜 勤 行	ご 御 伝 しょ 御傳銭 「志村が最後に見た夢」	
3日(金)	9:30	しょ につ ちゅう 初 日 中	ふじわら ち か こ 藤原千佳子師	持ち帰り弁当
	13:30	ちゅう たい や 中 逮 夜		持ち帰り弁当
4日(土)	19:00	音 楽 法 要 ピアノコンサート	あき た ち なつ 秋田千夏さん 秋田ピアノ教室	
	9:30	ちゅう につ ちゅう 中 日 中	さ が え なつみ 佐賀枝夏文師	持ち帰り弁当
	13:30	おお たい や 大 逮 夜		持ち帰り弁当
5日(日)	17:00	子ども報恩講	副 住 職 「世界の果ての通学路」	持ち帰り おにぎり他
	9:30	けちがんにつちゅう がく 結願日中(楽)	ひら た せい こ 平田聖子師	持ち帰り弁当

ですね。<頼>  
ぬるま湯でない環境が  
人生の終焉に花開くの  
彩りがいつそう鮮やか  
になると言われます。  
なつた今年は、紅葉の  
いきなり寒さ厳しく  
ます。お届け致し 第74号を

が  
あ  
さ  
と

◆ 同朋会館の受付でお齋券をお受け取り下さい ◆ コロナ禍対策としてお齋はすべてお弁当仕立て基本的に持ち帰りを頂きます ◆ お弁当の内容は拙寺特製精進料理です ◆ 勤行は参詣者全員にご参加頂くため『本龍寺報恩講大谷派声明集』の販売と貸出します ◆ ご講師などの紹介は7ページをご覧下さい ◆ マスクの着用・検温・名簿記入・手指と会場消毒・非三密・換気等徹底します